

▶ 第2回 東京都教育ビジョン（第5次）検討委員会 会議要旨

（1）「今後5年間の教育施策の目標と基本施策」に挙げられた事項から

ア 教育DXの推進、デジタル人材の育成について

- これからの学びでは、子供が教員の言ったことをどれだけ覚えているかではなく、教員が言わなくてもどれだけ自分たちで解決できるかということが本質的な理想像となる。コンピテンシーの育成が重要。
- 教員も個別最適に、協働的に学んでいかなければならない存在である。チーム学校として、教員たちの学びの相似形が授業になるような形で、DXをうまく進めていくことが大事である。
- 課題解決方法（how）のみならず、そもそもなぜその問題を解決しなければならないのか（why）を理解するための情報収集、解決策を模索するような、根本をしっかりと学ぶためのDX推進であるべき。

イ グローバル社会における人材育成について

- 日本語であろうと英語であろうと、最後はコミュニケーション能力が一番大事。と同時に、広い世界に、様々な機会を探っていくためにも、やはり基本的な英語能力というのがとても大事。
- 都内にある外資系企業等のグローバルな資源を活用し、日常的な国際交流が進むとよい。
- 翻訳ソフトウェアの性能が飛躍的に向上しており、外国語の学習に活用できるのではないか。

※ 委員以外の専門家として、BofA証券株式会社 取締役副社長 林 礼子 様を招聘

▶ 第2回 東京都教育ビジョン（第5次）検討委員会 会議要旨

（2）「東京都教育ビジョン（第5次）」のコンセプトについて

- 東京都教育施策大綱の内容をベースにコンセプトを考えていくというのは、とても分かりやすく、的を射ている。その考え方に共感。
- 「一人一人の個性や能力に合った最適な学びの実現」というところを特に重視していく必要がある。教育そのものを一人一人にジャストフィットさせていく、個別最適な学びをどのように実現していくのかという視点が少し色濃く出るとよい。
- 心の教育、道徳教育、規範意識を高める教育、子供が自分で自分の心を育てていくということが重要。
- P D C Aという意思決定のサイクルから、見直しをもったらすぐに実行してみて、それを振り返って修正することを何回も繰り返すという政策決定の流れを、学校も行政も生かすという視点が加わるとよい。
- 物事のプロセスに着目することが重要。たとえば、ICTの活用で言えば、まだ、学校の中にいかにデジタルを導入するかという話に終始している感じがする。これまでの蓄積も大事だが、これからは、プロセスそのものを見直し、それを変えることによって、持続可能な社会等につなげていくというような発想のもち方をする必要があるのではないか。